

● CNC P はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です ●

シリーズ「土木ということば」 第 20 回 国語辞典の「土木」の用例

国語辞典の「用例」とは、『大辞林』に“用いられている例。用い方の例。「近松にーのある語」「ーをあげて説明する」とある。「土木」の代表的用例は何だろうか。まず、「土と木」の「用いられている例」を現代に近い時代に探した。

幕末から明治に活躍した福澤諭吉には多くの著作があり、慶應義塾大学の『デジタルで読む福澤諭吉』で全 119 冊の全文が検索できる。福澤諭吉が初めて使った「土木」は、翻訳本『兵士懐中便覧』（1868）「第三砦を築くに土方の人数十分にすて且土木も沢山なれば本式に築造す可きなれども」で、「建設材料」としての「土と木」であった。西洋文明の紹介書『西洋事情二編巻之一』（1870）「物を費し随て新に物を生ずるに当り、土木を費して家を生じ、米を費して酒を生ずるの類なり。」は「建築材料」の「土と木」を表している。

次に「インフラを造る」「土木」の用例は、『日本国語大辞典第二版』（2001）に“青春〔1905～06〕〈小栗風葉〉春・七「何か土木の事から県民の大反対を受けたので、其れを見切時に官途を退いて」とあるが、内村鑑三の講演『後世への最大遺物』（1894）の「ドウ云ふ事業が一番誰にも解るか」と云ふと、土木的の事業です。私は土木者ではありませんけれども、土木事業を見るのが非常に好きで、始終それがありますと注意して見て居ります。けれども一の此土木事業を遺すと云ふことは、實に我々に取つても快樂であるし、又永遠の喜と、富とを後世に残す所のものじやないかと思ひます。」はどうだろうか。なお、この初出の一節、後の岩波文庫や青空文庫所収の版とは異なっている。

（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

Vol.68 コンテンツ

| | | | |
|-------------|-----------------------------|-------|----|
| 巻頭言 | サブスク・ビジネス | 中村 裕司 | 2 |
| コラム | 花畑川を活かしたまちづくりの推進 | 三井 元子 | 3 |
| トピックス | 「土木コレクション（通称：ドボコレ）」を支援して | 田中 努 | 4 |
| 土木と市民社会をつなぐ | 土木広報の展開 -土木広報大賞 2019 から- | 塚田 幸広 | 6 |
| 部門活動紹介 | 令和元年度の企画サービス部門の課題と取り組み方策 | 中村 裕司 | 8 |
| 会員からの投稿 | 高齢化社会の住みやすさを求める会（CCRC）の取り組み | 成岡 茂 | 9 |
| サポーターからの投稿 | SNS 勉強会にかかわって感じたこと | 柴田 勝史 | 10 |
| 事務局通信 | | | 11 |